

## 倶多楽火山

### ○観測データの共有

2007年12月から自然公園財団と登別市の施設を臨時借用してテレメーター観測を継続している。観測データは気象庁と共有化する供に、伝送装置を設置した登別パークサービスセンターでは保守用モニターを一般公開し、地元の防災関係者やセンターの訪問者に情報提供を行っている。

大正地獄・大湯沼地域は、国立公園内ということもあり、商用電力・回線が整備されていない。このため防災対応は、大湯沼駐車場が開かれている時間帯は料金徴収員の目視監視、防災担当者の見回り、ボランティアガイドの情報、及び、このモニターで行われている。徴収員が噴騰に伴う噴気を認めると、センターへ無線連絡し、モニターで噴騰の有無、噴騰の大きさを確認する。規模によっては現地へ出向いた担当者により状況把握や観光客への注意喚起等が行われる。

このような態勢ながら、適切な立入り規制や、観光客が立入れる領域に噴石が飛散していないこと、訪問者の多い足湯でも高温熱水の流入による温度上昇が穏やかで、危険回避に十分な時間があることなどから、怪我人は出ていない。

しかし、噴騰活動が頻発したこともあって、センターの臨時女性職員は、モニター記録を適切に判断、更に噴騰予測を行うことができるまでになっているし、訪問者の質問にもモニター記録を交えながら受け答えを行い、必要に応じて適切な注意を与えている。監視を任されている徴収員はモニターで現況を把握してから持ち場につき、ボランティアガイドもモニターで現況を把握した後、案内に出て報告を行っている。

怪我人0人に対して、これらの人たちの存在は見逃せない。臨時観測ということもあって欠測が多く、地元の要求に応じているとは言い難いが、予想外に有効活用されており、このような共有形態も防災の観点からは重要なものかもしれない。

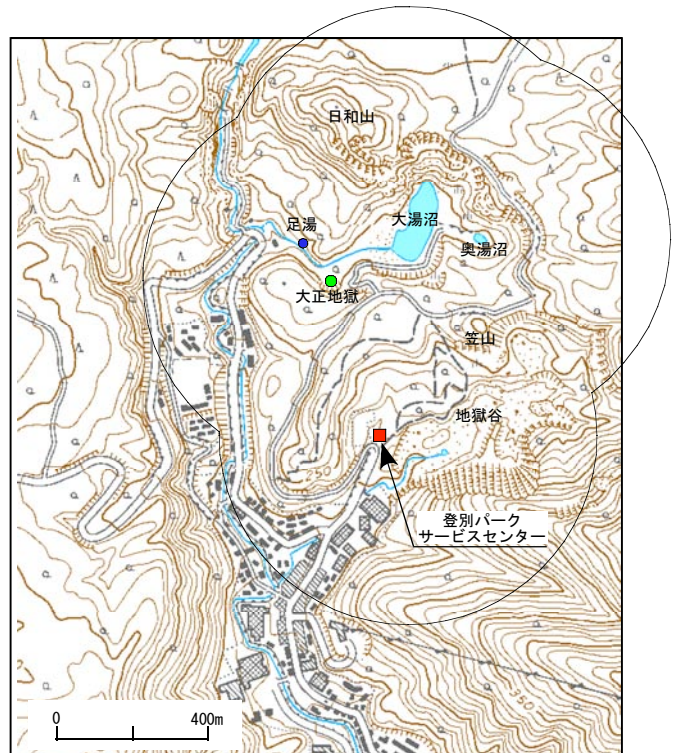


写真1. 地獄谷・大湯沼(倶多楽火山爆裂火口群) 周辺。青丸が足湯、緑丸が大正地獄、赤四角が中継装置の設置されているパークサービスセンター。細い曲線は記録に残る地熱異常活動の発生地点から半径500m内の領域。



写真1. 登別パークサービスセンターに設置した中継装置を納めた筐体およびディスプレイ装置

(大島・前川)

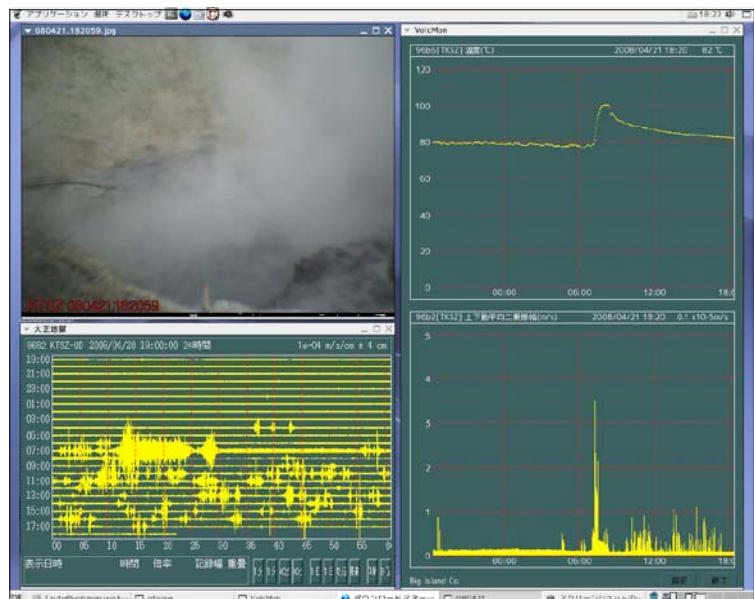


写真2. 中継装置のディスプレイ画面。左上：キャプチャー画像(1分間隔で更新)、左下：リアルタイム地震波形記録(24時間、上下動成分)、右上：湯温の1分間平均値、右下：1分間の二乗平均振幅(上下動成分)

倶多楽火山